

## 大正期の巨樹データベース

## 「加能老樹名木誌」

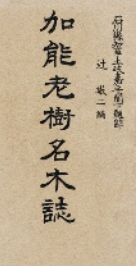
私が、加能一州における老樹名木保護

の資料として編纂された「加能老樹名木誌」に初めて出会ったのは、昭和40年代に遡ります。金沢市公園緑地課に配属間もない頃で、上司から「この本をコピーしてくれ」とよく言われました。題名に重厚感があり、聖書のように丁寧に取り扱われていた名木誌の著者は辻敬二で、石川県山林会から大正7年に発行され、私が見たのは大正14年に再版されたものでした。

また、欧米文明国では官民で協会を設け老樹名木の保護を行っており、森林法のように法を制定し国家の力により行うことを提唱している。辻君が公務の余暇で県下隅々に至るまで、丁寧に調査した老樹名木を載せてある絶好の樹木誌である。県山林会は県下の有識者に「愛樹愛林」の思想を喚起し、老樹名木の愛護を行っていただければ本望である。と述べている。

### ○第一 総説

辻氏は金沢市笠市町に住まいし、県林業技手で仁瓶氏と共に林業技術の研究発表を行っていました。



石川県立総合研究センター  
辻 敬二 著  
加能老樹名木誌

この本は、金沢市内の名木古木の現状を知る上でデータベースであり、樹木保存行政の基礎になっていたと思います。私にとって、百有年前の巨樹データを見るのが出来ることは、貴重で興味深く、著作者ならびに発行者に心から敬意と感謝を込め以下、紹介させて頂きます。

### ○序 仁瓶平二 林学士

(石川県山林会幹事)

仁瓶平二氏は金沢市森町(現扇町周辺)に住まいし、昭和の時代では拓務省技師を務めています。

序では、明治維新になって物質文化が謳歌され名物の樹木や老木が伐採される事例がみられたが、老樹大木は郷土の風致や自然環境そのものであり、金には代

えられない宝物である。

念すべき老樹名木が少なからず残っている。これらは郷土史や学術上の資料としても貴重である。従って、現在において「保護の法」を講ずることは「焦眉の急務」である。と述べている。

### ○第二 樹種別都市順

一の「大槻愛鐘の松(第四高等学校校庭)」から一五一の「金明竹(藤原の金明竹)」までが掲載され、再版では二八一におよぶ名木珍樹がほぼ写真入りで掲載されている。一例として、



(右) 大槻の影堂



(左) 大槻の影堂

旧県庁前にある「堂形の大椎」は、再版時の写真から現在の枯れた主幹の往時が連想でき大変興味深い。

### ○第三 樹種、周囲、樹高、樹齡、所在

因縁並びに都市別本数

この所在とは、神社境内、寺院境内、個人庭内、旧城跡内、郊外、公園地内、墓地内、官営学校内に区分され、また因縁とは、風致、記念、迷信、神木、神体、墓標の六区分において起因する項目に分け、本数が集計されている。

### ○付録 一、二

付録一には都市町村別の索引として、金沢市、江沼郡、能美郡、石川郡、河北郡、羽咋郡、鹿島郡、鳳至郡、珠洲郡の一市八郡にある樹木が、掲載されている。また、付録二には当時の老樹名木保護法として、①踏圧防止のため周囲柵の設置、②樹木周辺に盛り土をする場合の対策の他、倒木対策、切り口の保護、腐植や病害対策、施肥、白アリ等の対策、テツポウムシの駆除方法、ヤコノ処理について述べ、最後の④では、老樹名木が枯死した場合は、必ず大苗をその跡又は傍らに植えると述べている等、現代において通用しない部分もあるが往時の技術を垣間見ることが出来る。

### 【終わりに】

著作者の辻氏や仁瓶氏が共通して、郷土や国の宝物である老樹名木が失われつつあり、これらを守るため、「木籍簿」として残すことや樹木保護の法律制定を訴えている。現在においても高度経済成長による環境破壊や人心の変化など、共感する部分が多くあります。

また、百有年前から本県の林業部門において、樹木保護の取り組みが公務の余暇に行われていたことにも敬意を表します。

県巨樹の会では、県内の巨樹三百本余のデータをデジタル化し後世に引き継げるようにすると共に、広く県民に広報する等、巨樹古木保護の取り組みを進めています。それが、「愛樹愛林」思想を訴えられた辻氏の思いを引き継いでいると実感する次第です。

(県巨樹の会 上田哲男)